

# くすのき



岡本小学校 学校だより

No.9

令和2年9月29日

『信頼と共生のワンチーム』

## 《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

### 主体的な学びに向かって

「今年も挨拶運動をやった方がいいですか？」

「けっこう、みんな挨拶しているよね？」

「まず、運営委員会のメンバーが昇降口に立って挨拶してみたらどうかな？」

「突然みんなで並んで立っているのも、変じゃない？」

「でも、みんなが挨拶をちゃんと返してくれるようだったら、挨拶運動は必要ないじゃん」

委員会活動が本格的に始まりました。これは、第1回めの運営委員会での話題の一部です。

コロナ禍の中でも「やりたいこと」、コロナ禍の中だからこそ「やらねばならないこと」について、どの委員会でも真剣に話し合いが進められていました。進行役はもちろん6年生、夏休み前から着々と準備を進めてきました。

まず、委員会の立ち上げでは、「今年度、何ができるか」という視点で知恵を出し合いました。

「アルミ缶回収やエコキャップボトルの回収は感染予防が難しいので、できないだろう」ということで、ボランティア委員会は発足しませんでした。その他の7つの委員会を例年通り立ち上げました。

また、初めて委員会を経験する5年生のために、総合的な学習の時間等を使って活動紹介動画を委員会ごとに制作しました。この動画は、

実に完成度が高く、子どもたち一人ひとりの個性や熱意が輝いています。6年生の子どもたちの主体的な学びがあった証です。

動画視聴後、5年生の教室では、いよいよ自分が所属する委員会選びが始まりました。まず学級担任の思いが伝えられました。

「自分が本当に納得した委員会に入って、自分の力を生かせる仕事をしてもらいたいと思います。ですから、じゃんけんなどで委員会を決めたくありません。しっかりと自分の気持ちと向き合えるように、よく考えて、そして互いによく話し合って決定していきましょう。」

5年生の子どもたちは、互いの希望や考えを伝え合う中で、今まで気づけなかった新たな視点を持ち、自分自身の本当にやりたいことを整理していきました。少々時間はかかりましたが、この主体的な学び合いが合意形成を生み、それぞれが納得する委員会を選ぶことができました。

5か月遅れの委員会活動発足です。コロナによる休校がなければ、こうした光景は4月にみられるはずでした。教科の学習が遅れているのに、そこに時間をかけるのかというご意見もあるかもしれませんが、しかし、岡本小学校では、国語や算数のような教科以外の学習も大切にしていこうと、教職員全体で共有しています。

なぜなら、学級会や委員会活動等の特別活動や学校行事を通して、子どもたちはどう人間関係を築いていけばいいのか主体的に学ぶことができるからです。学校に子どもが集う意味は、こうした協働的な学びを通して、人として大きく成長することにあります。学校教育目標のひとつ「ともに生きる」ことにつながる学習活動を今後も大切にしていきます。



# リコーダー講習会

9月14日、初めてリコーダーを手にする3年生が、大村楽器さんの協力をうけ、「リコーダー講習会」を開きました。新型コロナウイルス感染症予防のために、音楽の歌唱やリコーダー学習が延期されていました。講師の先生は、言います。「リコーダーは正しい吹き方をすれば、安全な楽器です」

3年生は、リコーダーのふき口をくわえずに「トートー」と言いながら音を出すことを学びました。正しい吹き方を学び、授業の最後には、子どもたちのリコーダーの音色が素敵に響いていました。



## マスクの寄贈

「子どもたちと教職員のために」と、タイガーマスク3号さんより、使い捨てマスク1,000枚を、また、タイガーマスク4号さんより、手作りマスクが多数寄贈されました。

地域の応援団によって岡小は支えられていることに、教職員一同、心より感謝申し上げます。



## 校内研究の風景



校内研究が、9月から本格的に始まりました。今年度のテーマは「主体的に学ぶ子の育成～信頼と共生のワンチーム～」です。

令和2年度から始まった新しい学習指導要領では、各教科の授業の中で、「主体的・対話的で深い学び」を実践することが求められています。本校では、今年度は「主体的」ということに主眼を置き、教職員での学びを深めていきます。教室での三密を防ぐため、リモートによる公開授業も実施しています。校内研究の様子(写真)や研究会のまとめをHPにも順次アップしていきます。興味のある方はぜひご覧ください。

### わたしのひとりごと

子どもを見ているとついイライラしてしまう自分に気づくことはありませんか。仕事も大変、経済的にもきつい：現在は世界中で、大人が世の中に対する「安心と安全」の感覚を失っているような状態です。しかし、自分を責めても苦しくなるばかりです。あるエッセイにこんな文を見つけました。

「子どもに優しくできるようになるために、自分に優しくする必要があります。親子の悪循環は、親が「無意識に自分を責めている」とから生じる」

ゆっくりとお風呂につかりながら、「今日、自分はこんなことをがんばった」「いろいろと辛いことが重なっているけれど、ご苦労様」と、自分の心と体を優しく抱き留めてあげることが必要です。わずかに分足らずでできる自分自身への優しさです。

岡小の教職員にも伝えていきます。

「1日の終わりに最低一つ、自分をほめてあげてください」

学校では先生が、家庭では保護者が、子どもにたくさん笑顔を向けられますように。

岡小では、年間を通して月の始めに「健康チェック」を行っています。心と体は直結しており、心の不安定さは体の不調としてあらわれます。子どもの心の状態をこまめに把握し、必要に応じて適切なケアをできるだけ早く行うことを意図しています。

コロナの終息が見えず、子どもも大人も大きなストレスを抱えていることを危惧し、夏休み明けにはより細かく「こころとからだのアンケート」を行いました。最近のあなたは、いかがですか？

全校児童の回答を集計したところ、全校の16%の子どもが、「最近よくイライラする」と回答しています。コロナ禍の閉塞された学校生活へのイライラがもたれませんか。ステイホームが長時間に及んだことが苦しみを生み出したのかもしれない。しかし、怒りっぽくイライラしている原因を追究しても、その原因を取り除くことは、誰にもできないでしょう。ですから、子どもの危険信号を見つけた時に、学級担任や養護教諭らは、「イライラしたり怒ったりすることはいけないことじゃないよ。」と伝えることにしています。

「体や心がストレスを感じているという大事なサインだから。そういうときには、くを、怒りやストレスを鎮めるといいよ。」と、ストレス解消方法を紹介するようにしています。

